



第558号

公益財団法人 千鳥ヶ淵 戦没者墓苑奉仕会
〒102-0075 千代田区三番町2
電話 03 (3261) 6700
FAX 03 (3261) 6712

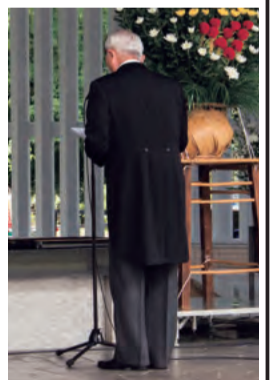


http://www.boen.or.jp
郵便振替口座 00140-2-42556

編集人 榊枝 宗男
発行人 杉本 順則

4名からなるコロナ感染対策チーム「ウイルスバスターズ」を編成し、すべての参列者の検温や施設等の除菌作業を行った。今回の式典では、新型コロナウイルス流行が続く中、3年連続で規模が縮小されたが、参列者は前年の320名から380名に増加した。特に、遺族会については、昨年は招待対象の遺族会を首都圏の4遺族会に限定したが、今年は47都道府県の遺族会へ拡大し、最も遠方から参列した佐賀県を含む12都府県の遺族会代表の出席を得た。式典は午後1時に開始され、国歌演奏の後、表千家流の小野弘子先生による献茶の儀が行われた。次に、鈴木俊一奉仕会会長（現財務大臣）が国会開催中であることから、祭主として草刈隆郎奉仕会副会長が会長式辞を代読し、全戦没者に対して心からなる感謝と哀悼の誠を捧げた。次いで、吉永龍奏氏（筆葉稲葉明德氏）により昭和天皇の御製を、また、竹内一香氏（尺八安藤一感氏）により上皇陛下御製がそれぞれ吟詠され、続いて音羽ゆりかご会による「海ゆかば」等唱歌奉唱による奉納行事が行われた。その後、岸田内閣総理大臣の「追悼の辞」（磯崎内閣官房副長官が代読）が紹介され、「今、私たちが享受している平和と繁栄は、戦没者の皆様の尊い命と、苦難の歴史の上に築かれたものであります。先の大戦の記憶を次の世代に継承し、戦争の惨禍を二度と起こさない。この決然たる誓いをこれからも貫いてまいります。歴史の教訓を深く胸に刻み、未だ争いが絶えないことのない世界にあつて、今後とも世界の平和と繁栄に能う限り貢献して参ります」との決意を述べられた。

式辞



会長式辞

さて、戦後77年が経過し、ご遺族の高齢化が進む中、先の大戦の記憶や日本のため礎となられた戦没者への尊崇の念の風化が懸念されます。今日、私達は平和で豊かな生活を享受しておりますが、それが戦没者の方々の尊い命の犠牲の上に築かれたものであり、英霊のご加護の賜であることを片時も忘れてはならないと思っております。ここに、謹んで国難に殉じられた戦没者の方々に心からなる哀悼の誠をささげ、深い感謝とともにご冥福をお祈り申し上げます。私ども、公益財団法人千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会は、本墓苑に奉安されているご遺骨が、先の大戦で海外で亡くなられた全戦没者二百四十万の方々のご遺骨を象徴するものと考え、当墓苑が戦没者の慰霊奉賛の場となるように努めております。幸い関係各位のご理解・ご協力を頂いておりますことに、深く感謝申し上げます。千鳥ヶ淵戦没者墓苑には、現在、三十七万二千六百七十七柱が奉安されており、ご遺骨収容の努力は今なお続けられておりますが、今日未だ、海外には百二十万人のご遺骨が残されており、ご遺骨の一日も早いご帰還が果たされ、ご遺族の皆様への心の安らぎがもたらされることを祈念しております。私どもは、今後とも、当墓苑が全戦没者に対する慰霊奉賛の灯火を守る国民的聖苑として、これを確実に次の世代へと継承すべく努力を続けて参ります。終わりに今一度、戦没者の御霊の安らかならんことをお祈り申し上げますと共に、ご遺族の皆様のご健勝を祈念し、式辞といたします。本日、誠に有り難うございました。令和4年10月18日 公益財団法人 千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会 会長 鈴木俊一



ご拝礼される秋篠宮皇嗣同妃両殿下

10月18日、令和4年度千鳥ヶ淵戦没者墓苑秋季慰霊祭が、厳粛に執り行われた。式典では秋篠宮皇嗣同妃両殿下の御臨席を仰ぎ、内閣総理大臣（代理）をはじめ、戦没者のご遺族や戦友会関係者、総務大臣等の閣僚（代理）、政界党首（代理）、自衛隊の高官等、内外の多数の関係者が参列し、先の大戦で亡くなられ、現在の平和の礎となられた全戦没者に対して感謝と哀悼の誠が捧げられた。千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会では今回の式典にあたり、政府や業界団体が発表している新型コロナウイルス感染症対策に関するガイドラインに基づき、昨年と同様に、感染リスクを勘案しつつ、感染防止対策に万全を期した。特に個人に対する感染防止については、新たな生活様式に基づく「感染防止のお願い」をすべての参列者に対して事前に送付し、出席者に対する検温、手指消毒の徹底を期した。また、招待者数を制限して座席の間隔を確保しつつ、式典に先立ち、不織布マスクの着用、指定席への着席、私語の禁止等式典間の注意事項を説明して参列者相互の感染防止意識を喚起した。更に、昨年に引き続きJYMA日本青年遺骨収集団及び墓苑清掃ボランティアの皆さんのご支援を得て、



ご着席される秋篠宮皇嗣同妃両殿下

内閣総理大臣追悼の辞

本日、秋篠宮皇嗣同妃両殿下の御臨席の下、千鳥ヶ淵戦没者墓苑秋季慰霊祭が挙行されるに当たり、謹んで追悼の言葉を申し上げます。先の大戦では、千鳥ヶ淵戦没者墓苑に眠られている三十七万余の方々を始め、多くの方々、戦場に斃れ、あるいは戦後、遠い異郷の地で命を落とされました。改めて、心より哀悼の誠を捧げます。



内閣総理大臣追悼の辞 磯崎内閣官房副長官

終戦から77年の歳月が流れた今日、未だ帰還を果たされずにいる多くの遺骨のことも、決して忘れません。一日の決然たる誓いをこれからも貫いてまいります。歴史の教訓を深く胸に刻み、未だ争いが絶えないことのない世界にあつて、今後とも、世界の平和と繁栄に能う限り貢献してまいります。先の大戦の記憶を次の世代に継承し、戦争の惨禍を二度と繰り返さない。この決然たる誓いをこれからも貫いてまいります。歴史の教訓を深く胸に刻み、未だ争いが絶えないことのない世界にあつて、今後とも、世界の平和と繁栄に能う限り貢献してまいります。終わりに、戦没者の御霊の安らかならんことを、ご遺族の皆様には、ご多幸を、心よりお祈りし、追悼の言葉といたします。令和4年10月18日 内閣総理大臣 岸田 文雄

香氏（尺八安藤一感氏）により上皇陛下御製がそれぞれ吟詠され、続いて音羽ゆりかご会による「海ゆかば」等唱歌奉唱による奉納行事が行われた。その後、岸田内閣総理大臣の「追悼の辞」（磯崎内閣官房副長官が代読）が紹介され、「今、私たちが享受している平和と繁栄は、戦没者の皆様の尊い命と、苦難の歴史の上に築かれたものであります。先の大戦の記憶を次の世代に継承し、戦争の惨禍を二度と起こさない。この決然たる誓いをこれからも貫いてまいります。歴史の教訓を深く胸に刻み、未だ争いが絶えないことのない世界にあつて、今後とも世界の平和と繁栄に能う限り貢献して参ります」との決意を述べられた。

さて、戦後77年が経過し、ご遺族の高齢化が進む中、先の大戦の記憶や日本のため礎となられた戦没者への尊崇の念の風化が懸念されます。今日、私達は平和で豊かな生活を享受しておりますが、それが戦没者の方々の尊い命の犠牲の上に築かれたものであり、英霊のご加護の賜であることを片時も忘れてはならないと思っております。ここに、謹んで国難に殉じられた戦没者の方々に心からなる哀悼の誠をささげ、深い感謝とともにご冥福をお祈り申し上げます。私ども、公益財団法人千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会は、本墓苑に奉安されているご遺骨が、先の大戦で海外で亡くなられた全戦没者二百四十万の方々のご遺骨を象徴するものと考え、当墓苑が戦没者の慰霊奉賛の場となるように努めております。幸い関係各位のご理解・ご協力を頂いておりますことに、深く感謝申し上げます。千鳥ヶ淵戦没者墓苑には、現在、三十七万二千六百七十七柱が奉安されており、ご遺骨収容の努力は今なお続けられておりますが、今日未だ、海外には百二十万人のご遺骨が残されており、ご遺骨の一日も早いご帰還が果たされ、ご遺族の皆様への心の安らぎがもたらされることを祈念しております。私どもは、今後とも、当墓苑が全戦没者に対する慰霊奉賛の灯火を守る国民的聖苑として、これを確実に次の世代へと継承すべく努力を続けて参ります。終わりに今一度、戦没者の御霊の安らかならんことをお祈り申し上げますと共に、ご遺族の皆様のご健勝を祈念し、式辞といたします。本日、誠に有り難うございました。令和4年10月18日 公益財団法人 千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会 会長 鈴木俊一

秋季慰霊祭のご支援に感謝

令和4年度千鳥ヶ淵戦没者墓苑秋季慰霊祭では大勢の方々のご支援、ご協力をいただき整齊と執り行うことができました。先に記載したJYMA日本青年遺骨収集団、部隊拝礼頂いた陸・海・空自衛隊、献茶や奉納行事のご担任以外にも、多くの方々にご支援頂きましたので紹介させていただきます。特に、東京都隊友会(自衛隊OB会)44名の皆様には、受付、案内、司会進行支援、救護などの式典運営支援にご尽力頂きました。また、陸上自衛隊第301映像写真中隊の方には、写真、ビデオ撮影など式典の記録を担当して頂きました。皆様の献身的なご支援、ご協力に対し、衷心より敬意と感謝を申し上げます。



受付担当東京都隊友会の皆さん



検温中の支援ボランティアさん



上皇陛下御製奉誦



昭和天皇御製奉誦



献茶の儀



音羽ゆりかご会の唱歌



拝礼部隊の捧げ銃



献花する遺族会代表

立正佼成会 千鳥ヶ淵戦没者慰霊法要

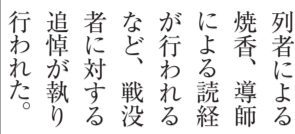
9月23日、立正佼成会主催「第64回千鳥ヶ淵戦没者慰霊法要」が催された。本法要は、先の大戦において犠牲になられた戦没者に真心からの回向供養をさせていただく式典で、二度と戦争を引き起こさないこと、平和の永続に対して誓願を新たにすることも。慰霊法要は導師である千葉東京教区長による読経供養に始まり、次いで庭野会長による回向文が千葉導師により奏上され、平和への決意を披露した。その後焼香が行われ、最後に導師挨拶が行われて法要は終了した。本年の法要は、例年に比べて少人数ながら感染対策に留意しつつ厳粛な中で行われた。



立正佼成会は、昭和34年当墓苑が創建されて以来、毎年秋のお彼岸の中日に「千鳥ヶ淵戦没者慰霊法要」を開催している。

浄土真宗本願寺派（西本願寺） 千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要

9月18日、浄土真宗本願寺派主催「千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要」が行われた。平和の鐘を撞いた後、優秀作文の朗読・表彰が行われ、引き続き、導師である石上総長により「平和宣言」が述べられるなど例年と同様の内容で行われた。六角堂内には祭壇が設けられ、参列者による焼香、導師による読経が行われるなど、戦没者に対する追悼が執り行われた。



浄土真宗本願寺派主催「千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要」が行われた。



飯山市遺族会 (4.9.7)



普明会教団月例参拝 (4.9.5)



解脱会青年部の献鶴 (4.8.20)



海洋少年団参拝・訓練 (4.10.01)



喇叭保存会 (4.9.11)



真言宗法要 (4.9.9)

各団体の慰霊参拝



東京葵ライオンズクラブ清掃奉仕 (4.10.08)

「千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会 推薦図書のご案内」

大東亜戦争から77年が経過し、戦争体験者が少なくなってきました。慰霊奉仕を目的として奉仕会も活動しておりますが、戦争のことを子の代、孫の代へ語り継ぐことにひと苦労しているのが現状ではないでしょうか。そんなときに今年の8月に発刊された絵本3部作①「おじいちゃんのバイオリン」、②「さいごのあさごはん」、③「この声がきこえますか？」（みえだ氏著）に縁あって出会い、奉仕会として「千鳥ヶ淵」読者に推薦する次第です。

① おじいちゃんのバイオリン
この本の原作は「シベリアのバイオリン」（窪田由佳子著・地湧社）で、2020年にクラウドファンディングで出版されました。シベリア抑留の暗い話は良く聞いていましたが、この絵本は原作どおりハッピーエンドです。どんな状況であつても「好きなことが魂を鼓舞し、さらなる奇跡を生んだ」そんなエピソードが絵本になっています。
お子様、お孫様と、先の大戦で実際にあったシベリア抑留についてのことを考えるきっかけになると思います。



推薦図書 みえだ氏著

- ① 先ず奉仕会にFAX・ハガキ・メールで、住所・氏名及び希望する絵本名と冊数をお申し込みください。11月1日から申し込み受付を開始します。
- ② 奉納、参拝団体・参拝者（敬称略、順不同）
クラスノヤルスク遺族会、鹿児島県遺族連合会、陸士五十八期生会、陸士六十期生会、普明会教団、真言宗護国派、靖国神社、立正佼成会、念法真教、日本宗教連盟、解脱会、阿含宗関東別院、法華宗宗務院、妙智會教団、大東亜戦争全戦没者慰霊団体協議会、英霊にこたえる会、シベリア抑留者支援センター、特攻隊戦没者慰霊顕彰会、日本戦没者遺骨収集推進協会、太平洋戦争戦没者慰霊協会、東郷会、日本郷友連盟、偕行社、隊友会、水交会、つばさ会、自由民主党、公明党、特別区議会議員会、全国市長会、福島県、滋賀県、読売新聞社、北海道新聞社、小松ストア、アクティクワガワキコ、東、時勇、佐知子、米原恭淳、福井博子、秀平良子、加藤憲一、倉持盛雄、田村力、笹隆治、哲子
- ③ 奉仕会年度会費納入（団体・個人）（敬称略、順不同）
中川昌久、飯島幸一、石川正英、林昭一、小黒俊之、佐藤直展、鈴木純夫、丸山セイ子、高荷義隆、今井敏夫、津田章、大澤一久、田村響、山崎敏哉、幸村龍一、飯島幸一、新井茂、秋葉正男、遠矢みち子、平田弘幸、渡邊守久、富田武司、野田安平、藤木俊一、森倉市蔵、木村チエ、黒岩しほ、山田フヨ
- ◎ 新入会員（敬称略、順不同）
立憲民主党東京都参院第3総支部、日本興志、僧庵の会施行院、岡本洋三、石飛雄三、皆川潔、大杉妙子
- ◎ 参拝団体（前項以外、敬称略、順不同）
長崎県遺族会、真の道、喇叭保存会、喇叭伝承会
- ◎ 清掃奉仕（敬称略、順不同）
千代田区、千代田区海洋少年団
- ◎ 阿含宗清掃奉仕、千代田区清掃奉仕
- ◎ 献花台奉仕者（敬称略、順不同）
草翠流（徳竹草華、前田翠漣、岡崎翠宏、住吉智翠、阿久津由翠）、松葉流古流（田中一秀、田中一桜、木村一恵、渡来一靖、田中一佳）、駿東流（小泉惠華、御園奈美恵、御園菊絵、美風池坊（小島美陽、西田栄舟、坂口美宝、野口能久）、古流松海会（高梨理園、清水理弘、佐々木理修、高橋理厚、米津理純、井内理琴）、遠州流一森会（名鏡一富、名鏡一玲、堀内さやか、もりたもか、荻窪一成）、柴山流緑山流（井上冷美、本多冷花、関口冷竜）、五十鈴古流一曉派（蟹江一岬、高野育枝、前田一寿、中山一葉）

② さいごのあさごはん
原作は「炎のメモワール」（小野瑛子著）で、小野氏からの「絵本にしてほしい」というリクエストに応じて絵本作家・みえだ氏が、小野氏没後約束を果たして絵本にしたものです。「戦争・原爆」がテーマになっていますが、「原爆」の絵本ではありません。「戦禍」により生き残った家族の悲しみ（「サイババーズギルド」（生存者罪悪）を静かに伝える内容となっています。戦争はダメだと私たちは簡単に口にしますが、それは日ごろから心がけなければ「平和」な状態を保つことは難しいのだと思います。何が平和か。平和の尊さをどこに見出すのか。そんなことをふと、考えるきっかけになれば嬉しいです。読んだ後、涙が溢れます。

③ この声がきこえますか？
77年前に亡くなられたすべての方々の声を無にしないでほしいと思つて、絵本作家・みえだ氏の幼少の頃のエピソードを交えて、本当に幸せだった昭和50年代を思い出しながら、一気に3日間制作したと聞いています。既に毎日新聞（9月29日）などでも紹介されていますのでご存じの方もいらっしゃいます。

この絵本の購入を希望される方は、以下の要領で申し込みをお願いします。代金は1冊700円（送料は別に500円必要です。3冊セットで2千500円（送料込）です。

③ 振込用紙にて郵便局でお支払い願います（振込手数料が掛かります）

◎ 奉納、参拝団体・参拝者（敬称略、順不同）
クラスノヤルスク遺族会、鹿児島県遺族連合会、陸士五十八期生会、陸士六十期生会、普明会教団、真言宗護国派、靖国神社、立正佼成会、念法真教、日本宗教連盟、解脱会、阿含宗関東別院、法華宗宗務院、妙智會教団、大東亜戦争全戦没者慰霊団体協議会、英霊にこたえる会、シベリア抑留者支援センター、特攻隊戦没者慰霊顕彰会、日本戦没者遺骨収集推進協会、太平洋戦争戦没者慰霊協会、東郷会、日本郷友連盟、偕行社、隊友会、水交会、つばさ会、自由民主党、公明党、特別区議会議員会、全国市長会、福島県、滋賀県、読売新聞社、北海道新聞社、小松ストア、アクティクワガワキコ、東、時勇、佐知子、米原恭淳、福井博子、秀平良子、加藤憲一、倉持盛雄、田村力、笹隆治、哲子

奉仕会 FAX: 03-3261-6712
奉仕会メール: choushikai@boen.or.jp
奉仕会住所: 〒102-0075 東京都千代田区三番町2
千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会

上皇陛下御製碑
常陸宮華子妃殿下揮毫

戦なき世と
歩みきり思い出づ
かの難き日と
生きし人々

管理事務所・菊池悟さんの「退職について」

これまで千鳥ヶ淵戦没者墓苑「清掃ボランティアの創設」に尽力され、また、ホームページの「墓苑の四季」へ毎月墓苑の草花や昆虫の写真と説明の記事をご投稿下さった管理事務所職員の菊池悟さんが9月末日をもって退職されました。当墓苑に参拝された方々には墓苑整備に汗を流される菊池さんのお姿を拝見されていることと思います。この7年間のご勤務に感謝するため、インタビューさせていただきました。まず、Q1. 墓苑についての思いや一番の思い出をお聞かせ下さい。「2ヘクタールに満たない小さな公園の管理ですので、作業の計画から実施まで一人で行うことが出来ました。独自の工夫を盛りこんだ管理はとても楽しかったです。



菊池悟さん (4.9.23)

昭和天皇御製碑
秩父宮勢津子妃殿下揮毫

くのためにのら
やさげしひとく
こととおもへばむねせまり
くる

好評販売中の推薦図書の参考資料を更新

「インパール作戦・イワラジ・メイク ティラー会戦の地へ」の著者である藤原 淑子さんが豊富な現地情報を元に参考資料(写真)を10月に更新しました。「ジヤワの極楽・ビルマの地獄・生きて帰れぬニューギニア」と当時たとえられたビルマ戦線です。食料や武器弾薬、薬の補給はなく、雨期に変貌する600mに及ぶ大河のチドウィン川を渡り切れず、愛馬や武器の大半を流されたとき、アメーバー赤痢やマラリアに苦しみが、幾重にも連なる2000m級の山脈を、武器や大砲を解体し、重装備の中



清掃ボランティア活動奉仕会 (3.9.18)

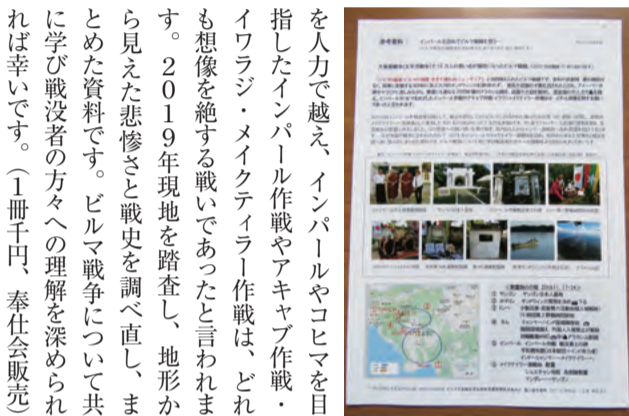
一番の思い出はボランティア会の運営に
関わったことです。清掃奉仕作業をする
皆さんの楽しそうなお姿には感銘を受け
ました。Q2. 奉仕会員として何か示
唆があればお伺いします。「先の大戦を
実際に体験した方は少なくなってきました。
いわゆる歴史を語り継ぐものも大事です
が、物語を楽しむというスタンスも次の
世代の人たちには親しみやすいかもしれ
ません。」最後に、Q3. 奉仕会の会員の
皆さんにお伝えしたいことがあればお願
いします。「3月、5月、9月、11月の第
3土曜日の午後1時から3時まで清掃ボ
ランティアがありますので、ふるってご参
加ください。」長きにわたるご勤務ありが
とうございました。今後の益々のご健勝
とご多幸をお祈りします。(9月23日記)

1 11・12月の献花予定
帝国華道院研究部の会員による11月、
12月の献花は次の社中の方々です。
ご来苑の際は、是非ご鑑賞下さい。
11月 和光古流 高橋 理淳
和光古流 汐満 理和
池坊宝生流 大澤 勝風
池坊宝生流 長谷川一翠
12月 柴山古流・緑山流 濱中 冷雅
日新流 小田切博新

2 年度会費の納入要領の変更について
これまで正会員及び特別会員の皆様
には入会された月を基準とし、年度会
費を納入して頂いておりました。今般
すべての会員の皆様を対象に年度会費
の振込用紙を広報紙5月号(5月1日
発行)に併せて送付したいと考えてお
ります。令和5年4月から開始する予
定です。令和5年4月から開始する予
定です。何卒、ご理解の程宜し
くお願い申し上げます。

3 お詫び
紙面の関係で今回は、連載中の「かけ
がえのない日本、かけがえのない世界」
の掲載は致しません。楽しみにしていた
読者の方々は、次号以降をご期待下さい。

墓苑便り(奉仕会だより)



宝くじは、みんなの暮らしに役立っています。

宝くじは、図書館や動物園、学校や公園の整備をはじめ、災害に強い街づくりまで、みんなの暮らしに役立っています。

移動採血車

ユニバーサルデザイン施設
ピクニックテーブル

一輪車

宝くじ桜

こどもの国 ふれあい学び館

星空観察映像展示施設

地震免震体験装置

ドリームジャンボ絵本

消防団防災学習・災害活動車両

テント

総合検診車

フラワープランター

一般財団法人 日本宝くじ協会
https://jla-takarakuji.or.jp/